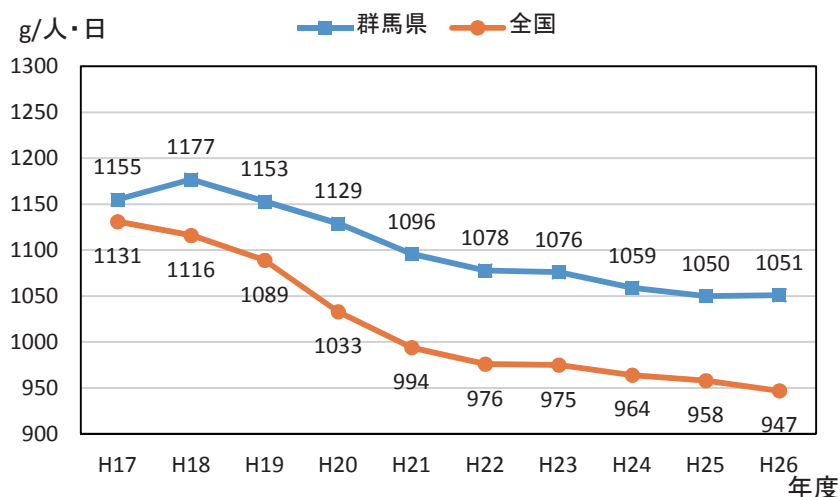


一人一日当たり排出量の推移(一般廃棄物)



## ■ 方向性

- ごみが発生しない社会となるよう、製造業者、小売事業者、県民及び県・市町村等各主体相互が連携していく取組を推進します。
- イベント等でのリユース食器の利用、レジ袋の有料化を含む容器包装の簡素化など、ごみの発生を抑えるための取組を支援します。
- 適切な改善・維持修繕を図ることで、住宅を長年にわたり有効活用します。
- 県民がリユースを日常的に行うことを通じて資源の地域循環に取り組めるよう、不要となった日用品や古着等の交換など市町村等におけるリユース事業の実施を支援します。
- エコ・クッキングや生ごみの水切りなど、ごみの減量に効果がある実践方法を普及・啓発します。
- 食品ロスを削減するため、県民、製造業者、処理事業者が連携しながら意識啓発を行います。

## ■ 施策展開

### ① ごみが発生させないライフスタイルの変革の推進

- ◆環境にやさしい買い物スタイルの普及促進【環境政策課】
- ◆県民への啓発活動(ぐんま3R宣言等)の推進【廃棄物・リサイクル課】
- ◆住宅の長寿命化の促進【住宅政策課】

### ② 市町村等が実施する2R事業への支援・拡大

- ◆2Rに関する施策の導入に向けた支援【廃棄物・リサイクル課】
- ◆市町村で実施している2Rの実施状況の情報共有【廃棄物・リサイクル課】
- ◆2Rに関する事業の連携及び広域化【廃棄物・リサイクル課】

### ③ 生ごみの減量、食品ロスの削減

- ◆エコ・クッキング、台所の生ごみの水切り、堆肥化等、家庭でできる生ごみの減量対策の啓発及び普及【廃棄物・リサイクル課】
- ◆食品ロスの削減の促進【ぐんまブランド推進課】



## ～なぜ「2R」の促進か？～

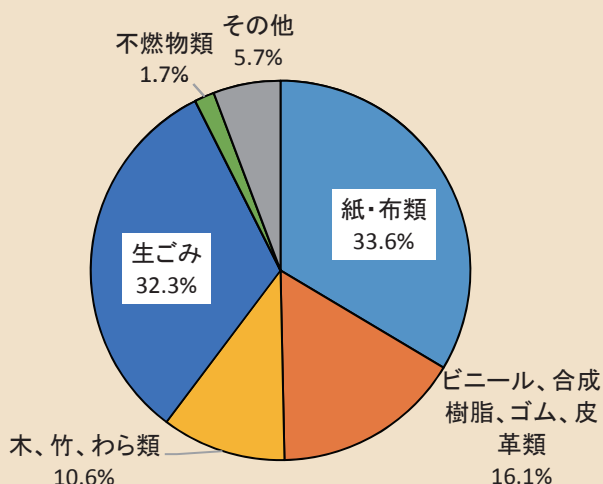
資源のロスを最小限に抑制し、地球が有する限りある資源を次の世代に引き継ぐためには、3R(リデュース(発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再生利用))の推進が不可欠です。

特に、2R(廃棄物を発生させない「リデュース」、いったん使用された製品等を再び使用する「リユース」)は、「リサイクル」に比べ資源のロスが少なく、また、その過程から発生する廃棄物の量も少ないため、資源の消費を抑え、廃棄物等から生じる環境負荷をより低減させることができます。

そのため、3Rのうち、特に2Rを優先して取り組む必要があります。

下の図は、平成26(2014)年度における生活ごみを焼却する県内の施設で受け入れたごみの組成分析の結果です。湿重量比では、紙・布類が最も多く、次いで生ごみ、ビニール・合成樹脂・ゴム・皮革類が続きます。

図 焼却施設(溶融施設含む)におけるごみ組成分析結果(湿重量比)(平成26年度)  
(資料:一般廃棄物処理実態調査(環境省)をもとに推計)



この状況を踏まえ、まず家庭で実践していただきたい具体例に、

- ①生ごみのリデュースとして  
食事は食べ残さないよう心掛けること
- ②紙ごみのリデュースとして  
簡易包装の商品を選ぶこと
- ③布類のリユースとして  
古着を人に譲ったり再利用すること  
などが挙げられます。

ただ、このような家庭での取組だけでは限界があります。

そこで、事業者において、寿命がより長い製品を開発したり、容器包装を更に簡素にしたり、リターナブル瓶をより多くの飲料等で使用するなどの取組も大切です。

豊かで持続的に発展する群馬県を目指し、県民、事業者、自治体等が一体となり、身近なひとつひとつから2Rの実践をお願いします。